「東京東部低地ゼロメートル地帯を行く」

東京の東部低地帯はゼロメートル地帯が多く、災害への備えが重要な地域です。東京の東部は軟弱な沖積層からなり、隅田川、荒川、江戸川などの大河川と多くの支派川が流下し、東京湾に注いでします。
大正から昭和 40 年代にかけて進行した地盤沈下位の影響で、地盤高が朔望平均潮位（※1）（以下、潮位と言う）より低い「ゼロメートル地帯」が広範囲に分布していることや、地震時に液状化の原因となる軟弱地盤が厚く堆積していることから、災害への備えが重要な地域です。地盤高が低く、昭和 30 年代頃までたびたび大きな水害に見舞われてきたこの地域では、河川、海岸保全、下水道の各施設における様々な整備が進められ、近年では大水害は発生していません。
※ 1　朔望平均潮位：朔（新月）および望（満月）の日から 5 日以内に現れる、各月の最高潮位面の平均値

想定される最も強い地震の揺れにも安心な堤防づくりを進めます。東京の東部低地帯は、住宅や商業施設などが密集し、都市機能も集まっています。この地域を流れる河川の堤防は、地域のくらしや生命、財産を守るため、より安全であることが求められます。そこで東京都では東日本大震災を踏まえ、想定される最も強い地震の揺れにも機能を確保し、津波等による浸水を防ぐことができる堤防づくりを進めます。（東京都建設局 HP より）

今回の見学会は、東京の東部低地帯にある江戸川区内を見学します。下記のとおり開催いたします。多くの方のお申込みをお待ちしております。

日　　時　令和２年８月１日（土）・２日（日）１０：００集合
※同コースを 2 日間実施します。ご都合の良い日をお選びください。

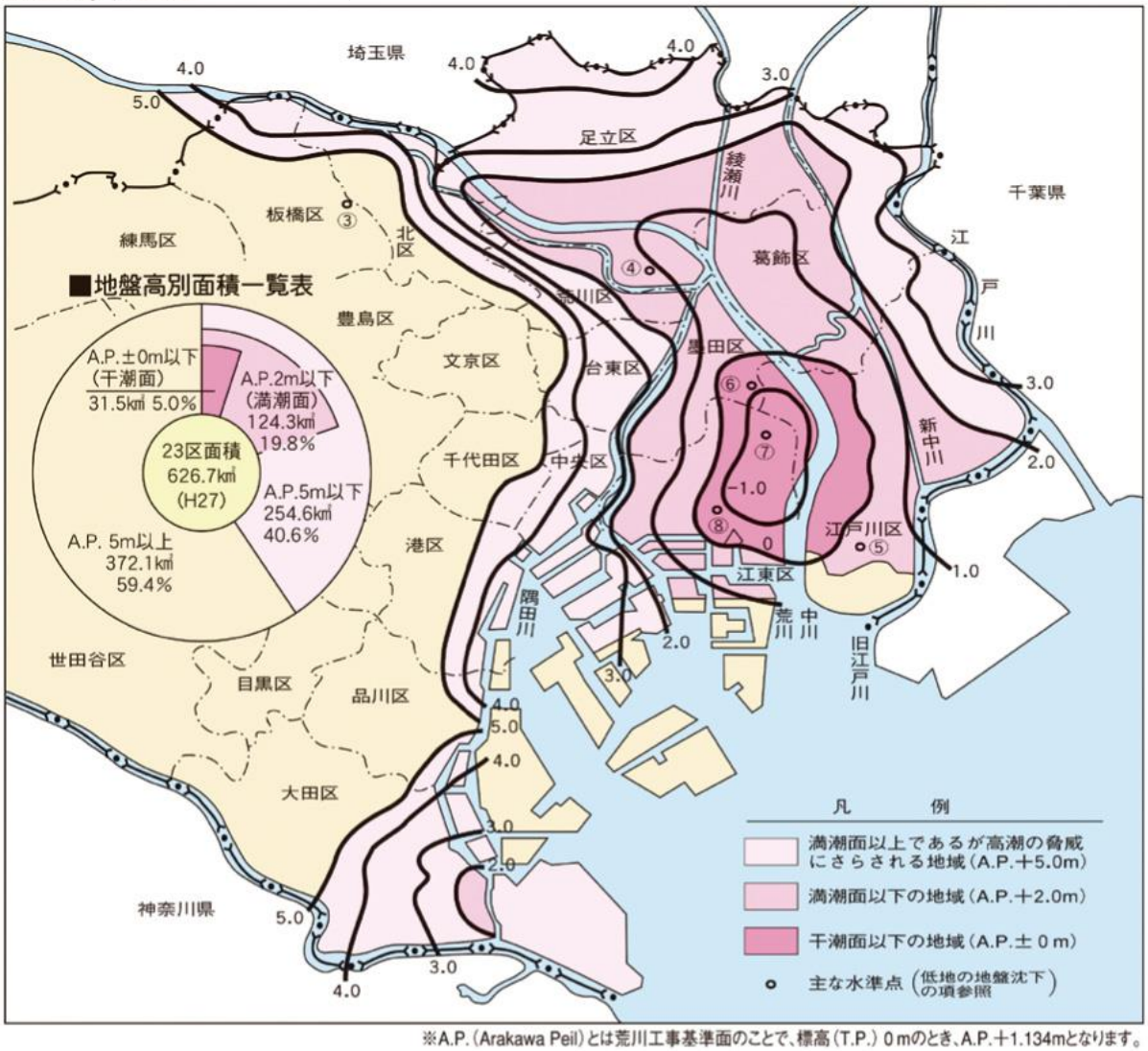
集合場所　JR 平井駅　北口広場（裏面地図参照）
参 加 費　１，０００円(資料、交通費、保険料の一部として)
募集人数　各２５名（先着順）　eizoutoshikeikaku@gmail.com　携帯 080-4006-8819
※新型コロナウィルス対策で密にならないよう募集人数を絞っております。(53 名乗り大型観光バス)

行　　程
１０：００　北口駅前水位表示塔の説明「ゼロメートル地帯」
１０：３０　バス乗車
１０：４５　旧中川コンクリート特殊堤防　到着　過去の地盤沈下の痕跡を見る。
１１：４５　平井スーパー堤防
１２：３０　江戸川区役所　リアルタイム水位表示、沈下の痕跡　見学
１３：３０　新川親水河川　海面水位と沈下地盤の比較、新川木橋軍群、火の見櫓
１４：３０　葛西、海岸堤防　高潮海岸堤防かさ上げの歴史
１５：００　葛西臨海公園　スーパー型海岸堤防、高台に隠した高潮堤防
１６：００　現地解散

※行程の時間については、道路状況により流動的です。
※昼食時間は特に設けません。各自ご持参ください。

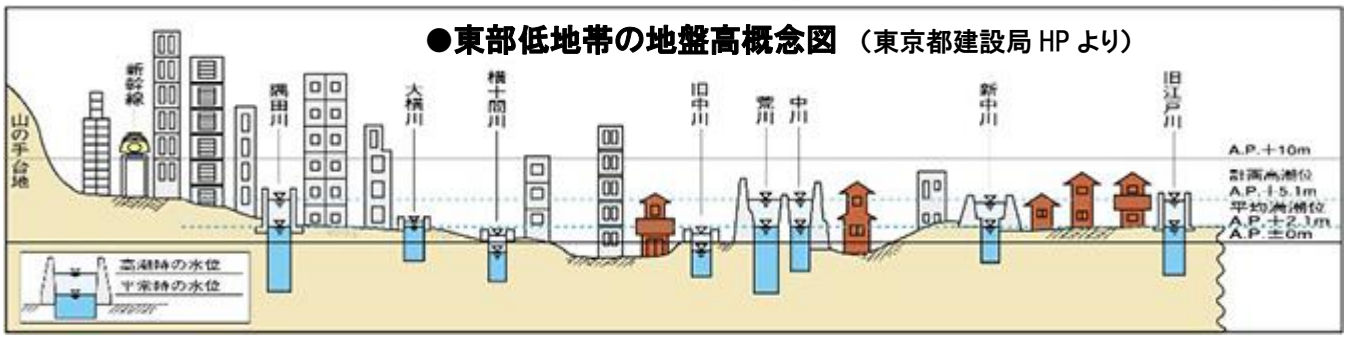
主催　市民防災まちづくり塾実行委員会・関東地域づくり協会

■地盤高平面図 （東京都建設局 HP より）



※A.P.（Arakawa Peil）とは荒川工事基準面のことで、標高（T.P.）０mのとき、A.P.＋1.134mとなります。

●東部低地帯の地盤高概念図 （東京都建設局 HP より）



集合場所案内図